令和4年12月
第619号
刈谷市教育委員会
刈谷市児童生徒愛護会

のぞましい家庭教育のしおり

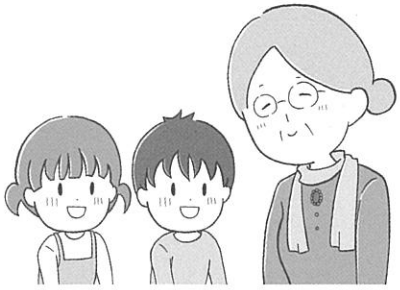
思いやりの心を感じた体験　～思いやりの芽生え～

私の家の近所には、妻の実家があります。子どもたちからすると「じいじ」と「ばあば」の家です。私たち夫婦が共働きのため、子どもたちは学校から祖父母の家に帰っていきます。習い事の送り迎えだけでなく、毎日、自分の家のように過ごす孫たちのことを祖父母はとてもかわいがってくれています。まず帰宅するのは一番下の二男です。続いて長男、長女が帰ってきます。学校から帰ってきてまずやることは、宿題のはずなのですが、多くの場合YouTubeを見るかゲームをするかです。その間、「お茶、ジュースが飲みたい。お菓子が食べたい」など、さまざまな要求を遠慮なしにします。YouTubeやゲームの順番、時間など三姉弟でのケンカも日常茶飯事です。そんな孫たちをいつも温かく包んでくれるのが「ばあば」です。

あるとき、「ばあば」が転んで、足を痛めてしまいました。病院で検査すると骨折していることが分かり、全治１か月と診断され、大きなギプスをすることになりました。自分では歩くこともできず、松葉づえを使用することになり、今までのような日常生活を送ることが難しくなりました。いつも明るく元気な「ばあば」が、自由に動けずに困っているのです。子どもたちにとって初めて経験する事態です。「お茶、ジュースが飲みたい。お菓子が食べたい」と言っても「ばあば」は動けないため、自分でやるしかありません。自分たちのやってほしいことをやってもらえないことで、「ばあばは、自分がやりたいこともやれないのではないか」ということに、ようやく子どもたちは気付いたようです。「ばあば、○○とろうか」「ばあば、△△やるよ」「私が弟の習い事の送り迎えに行ってくるね」など、言動が変化し、孫たちによる「ばあばお助け大作戦」が始まりました。

いろいろな考えがあると思いますが、思いやりとは「相手の立場になって考え、相手の気持ちを大事にして行動すること」ではないでしょうか。子どもたちは「ばあば」の立場になって考え、「ばあば」の気持ちを大事にして行動するようになりました。今まで自分たちがしてもらってきたことは当たり前ではなく、「ばあば」が自分たちのことを考えてくれていた「ありがたい」ことだと気付くことができました。

この経験を通して、これからは家族だけでなく、学校や地域の人たちにも思いやりのある行動ができるようになってほしいというのが親の願いです。不自由な生活をしていた「ばあば」には申し訳ないのですが、そのことで子どもたちが思いやりの心をもつことができたことに、感謝をしています。



一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 **子ども相談センター** ～子どもに関する相談の総合的な窓口～
月～土曜：9時～17時（国民の祝日・年末年始を除く）
☎：62－6313　電話相談・来室相談

・刈谷市 青少年電話相談 ☎：23－8888　月～金曜　9時～17時

・県教育相談 こころの電話 ☎：052－261－9671　10時～22時